

第2次

飯田市教育振興基本計画

中期の取組

平成29年4月1日

令和3年4月1日 追加

長野県飯田市教育委員会

目次

第1章 第2次飯田市教育振興基本計画について

第1節 計画の位置づけ	1
第2節 計画の構成と計画期間	1
第3節 中期の取組策定の趣旨	1

第2章 飯田市の教育ビジョン・教育振興方針・取組の柱

第1節 飯田市の教育ビジョン	3
第2節 教育振興の6つの方針	4
1 「地育力」により「ムトスの心」と「結いの心」を育みます	4
2 多様な主体が協働し飯田の未来を担う子どもたちの「生きる力」を育みます	4
3 「私の学び」と「私たちの学び合い」を高め、魅力ある人・地域づくりを進めます	4
4 「市民主役」の文化・スポーツ活動を、より活発に展開します	4
5 「伊那谷の自然と文化」を学びと地域づくりに生かし継承します	4
6 行政の「総合力」を発揮して市民とともに教育事業を進めます	4
第3節 取組の12の柱	5
用語解説	7

第3章 中期4年間の取組

第1節 中期に取り組む重点目標の考え方	9
第2節 3つの重点目標	9
1 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む ..	10
2 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	12
3 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	14

<資料集>

第2次教育振興基本計画前期の取組総括	16
--------------------------	----

第1章 第2次飯田市教育振興基本計画について

第1節 計画の位置づけ

第2次飯田市教育振興基本計画は、平成28年度に策定をしました。

教育基本法第17条第2項の規定に基づく、飯田市の実情に応じた教育の振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、飯田市の総合計画である「いいだ未来デザイン2028」における、教育分野の個別計画としても位置づけています。

第2節 計画の構成と計画期間

- 1 第2次飯田市教育振興基本計画の計画期間は、平成29(2017)年度から令和10(2028)年度までの12年間です。これは、平成39(2027)年に予定されているリニア中央新幹線の開業を見据えて策定されている「いいだ未来デザイン2028」の分野別計画としての位置づけを持つためです。「いいだ未来デザイン2028」に合わせて、12年間の計画部分は、飯田市の教育ビジョン、教育振興の6つの方針、取組の12の柱(基本的な方向)を定めています。
- 2 時代の変化や、制度の改正などに対応するため、12年間の計画期間を前期、中期、後期の4年間に分け、期ごとに、その時の課題に対応した重点目標とアクションプログラム(具体的な取組)を定めることとしました。

第3節 中期の取組策定の趣旨

- 1 上記第1節及び第2節を踏まえ、中期(4年間)の重点目標及びアクションプログラムを策定するものです。

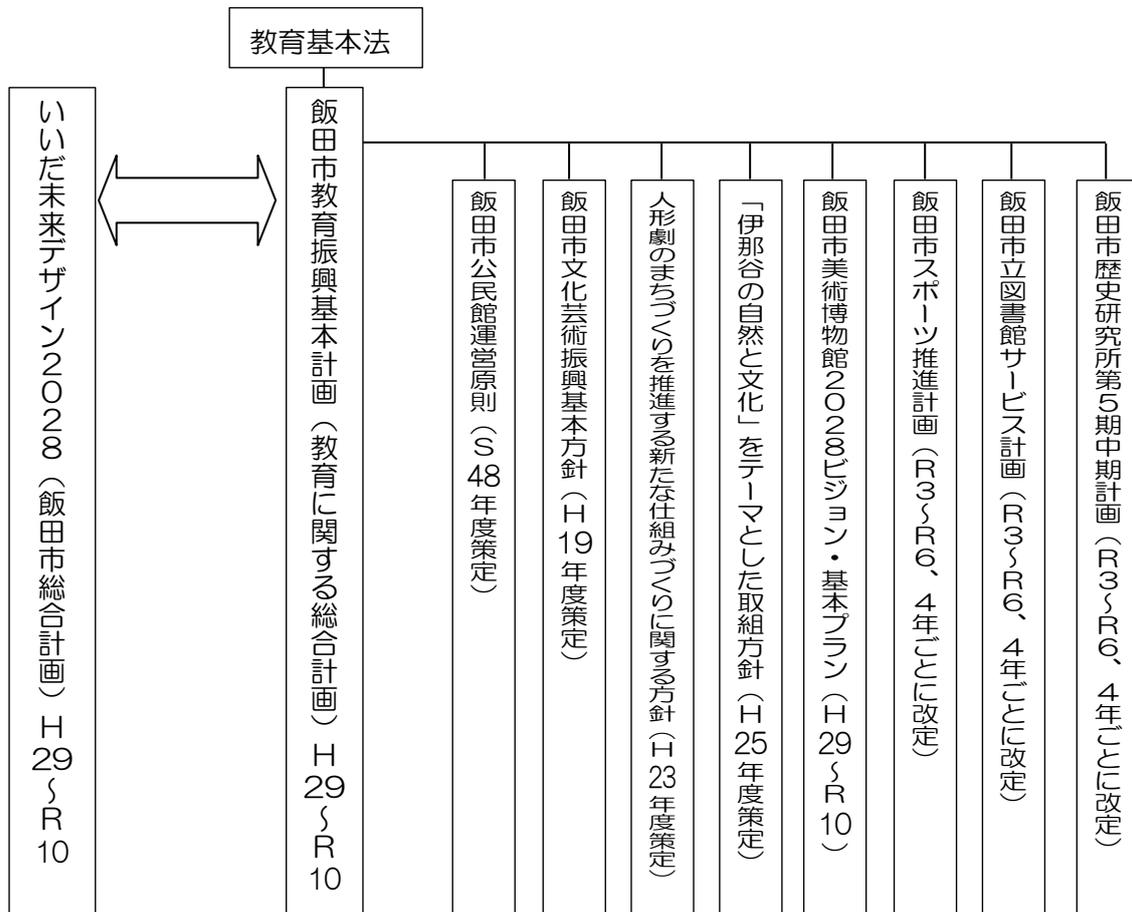
※計画期間を図に示すと以下のとおりとなります。

飯田市の教育ビジョン、教育振興の6つの方針、取組の12の柱 (リニア開通後の令和10(2028)年を見据えた12年間の計画)		
前期(4年間) H29(2017)~R2(2020) 重点目標 アクションプログラム	中期(4年間) R3(2021)~R6(2024) 重点目標 アクションプログラム	後期(4年間) R7(2025)~R10(2028) 重点目標 アクションプログラム

- 2 前期4年間の振り返りを行い、また昨今の教育を取り巻く環境の変化を考慮して中期4年間の取組を策定しました。
 - (1) 人口減少社会の中で地育力を支える地域の高齢化が進み、また家庭環境の多様化も進むなど、子どもの教育を取り巻く環境が大きく変化しつつあります。
 - (2) 令和元年度末から国内で新型コロナウイルス感染症が発生し、現在のところ新型コロナウイルス感染症と共に活動していく方法を考慮せざるを得ない状況です。

※参考

飯田市の教育に関する計画等の体系（飯田市教育振興基本計画と各個別計画等の関係図）



第2章 飯田市の教育ビジョン・教育振興方針・取組の柱

第1節 飯田市の教育ビジョン

飯田市では、結いとムトスの心が息づき、人と人とのつながりが強く、自主自立の精神によるコミュニティ活動が活発に展開されています。また、今日の公民館活動に代表されるような豊かな学びの土壌が、時代を超えて引き継がれてきています。このような地域の包容力や懐の深さが地育力を生み出し、飯田市の教育における大きな強みとなっています。

第2次飯田市教育振興基本計画においては、この飯田の強みをさらに伸ばすとともに、最大限に生かし、飯田で学び、飯田で育ち、飯田に暮らすことが自信と誇りになるよう、飯田らしい愛情あふれる教育・学習環境をつくることを、めざしています。

こうした基本認識から、第2次教育振興基本計画では、第1次計画のめざす姿である「地育力による ころこ豊かな人づくり」の理念を継承し、同時に、変化の激しいこれからの時代に向かって、グローバル（地球規模的）な視野と感性、ふるさと飯田への誇りと愛着をもって、自らの力で未来を切り拓いていける力を育むことを加え、教育ビジョンを次のように掲げました。

<飯田市の教育ビジョン>

地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり

第2節 教育振興の6つの方針

飯田市の教育ビジョンを実現するための振興策を進めるにあたっての基本的な方針を、以下のとおりとしています。

1 「地育力」※¹により「ムトスの心」※²と「結いの心」※³を育みます

飯田市の教育は、これまでの歩みの上に立ち、これからの時代を見据え、学校教育と社会教育の連携・融合（大人の学びと子どもの育ちをつなげる教育活動）により、子どもから成人までの市民が、「地育力」に支えられた学び合いを通して、「ムトスの心」と「結いの心」を育み、心豊かに主体的に生き抜く力を培うことをめざします。

2 多様な主体が協働し飯田の未来を担う子どもたちの「生きる力」を育みます

リニア時代の主役となる子どもたちが、変化の激しいこれからの時代にあって、確かな学力・基礎的体力・自己肯定感・課題解決の力を備え、グローバルな視野とふるさとへの慈しみをあわせもち、飯田に心根をおいて地球規模で交流・活躍・貢献しながら生き抜く力を獲得するための教育を、学校、家庭、地域、行政の協働で進めます。

3 「私の学び」と「私たちの学び合い」を高め、魅力ある人・地域づくりを進めます

市民一人ひとりが自分らしく生きる自己実現のための学習を支援するとともに、地域における生活課題や地域課題をテーマとした共同学習の場づくりと実践活動への支援を通じて、住民自治の担い手の発掘・育成と、地域における自治力の向上を図ります。

4 「市民主役」の文化・スポーツ活動を、より活発に展開します

市民が主人公となり、心豊かで健康に生きることをめざし活発に展開されている文化・スポーツ活動を支援するとともに、市民、事業者等と協働し飯田ならではの取組を推進します。

5 「伊那谷の自然と文化」※⁴を学びと地域づくりに生かし継承します

市民のふるさと意識の源であり、飯田の個性と魅力の基となる「伊那谷の自然と文化」について、市民研究団体や多様な地域組織との協働を基軸として、地域外につながる研究ネットワークを構築し、調査研究、教育普及、研究人材の育成を進めるとともに、ふるさとを学ぶ教材や地域を輝かせる資源として活用し後世に継承します。

6 行政の「総合力」を発揮して市民とともに教育事業を進めます

飯田市の教育行政は、教育実践と、市民の学習活動への支援の最前線である学校及び社会教育機関の自立性を尊重し、教育委員会が調整機能を発揮しながら、全市的な視野から部局・部署間の連携を図り、「総合力」を発揮して教育振興策を進めます。飯田市教育委員会が行う学習・文化・スポーツ事業は、市民、事業者等と協働し、市民の願いに応える事業、飯田の特性や資源を生かす事業、継続発展性ある事業とする視点から企画・実施します。

第3節 取組の12の柱

飯田市の教育ビジョンの実現をめざし、教育振興方針に基づき、12年間の計画期間を通して進めていく振興策の取組みの柱（取組の方向性）を、「12の柱」として、以下に示します。

1 発達・成長の土台をつくる

子どもたちが、心身共に健やかに成長し、個性や可能性を伸ばす土台となる基礎的な学力・体力の向上を図ります。

2 グローバル時代を生きる力を育む

グローバル化が進展し社会変化がさらに激しくなる時代の中で、子どもたちが自らの力で未来を切り拓いていける力を育みます。

この取組は、「L G（地域・地球）飯田教育」^{※5}の視点に立ち、「3 ふるさと飯田への愛着を育む」取組と一体的に推進します。

3 ふるさと飯田への愛着を育む

地育力を活用したふるさと学習、キャリア教育、体験活動などを通じて、子どもたちのふるさと飯田への誇りと愛着を育みます。

この取組は、「L G（地域・地球）飯田教育」^{※5}の視点に立ち、「2 グローバル時代を生きる力を育む」取組と一体的に推進します。

4 豊かな心を育てる

子どもたちが自己肯定感を抱き、人権意識を高め、他者をいたわり共に生きていけるよう、豊かな心を育みます。

5 学びの環境を保障する

経済的な理由や家庭環境により、子どもたちの学習機会が制約されることのないよう支援します。

6 地域ぐるみで子どもを育てる

家庭、学校、地域のそれぞれが子どもの教育における役割を果たすとともに、互いに連携・協力して地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。

7 生涯学び続けられる環境をつくる

市民の様々なライフステージや多様なニーズに応じた学習や交流の機会を提供し、生涯にわたって学び続けることができる学習環境を整備します。

8 地域づくりの担い手を育む

「ムトス」と「結い」の心による市民主体の地域づくりが将来に向けても展開されるよう、市民の学習活動への支援と地域づくりや地育力を担う人材の継承と発掘・育成を進めます。

9 文化力を高め心豊かな市民生活を実現する

心豊かな市民生活の実現をめざし、市民自ら主体的に取り組む文化芸術活動を支援するとともに、多様な文化芸術に触れる機会を提供します。

10 スポーツにより人と地域が輝く社会（まち）づくりを進める

生涯スポーツ・コミュニティスポーツ・競技スポーツの推進を通じて「人と地域が輝く社会（まち）飯田」^{注1}をつくります。（注1：飯田市スポーツ推進計画の基本理念）

11 「伊那谷の自然と文化」の学究・普及・継承・活用を推進する

独自で、多様で、奥深い「伊那谷の自然と文化」をテーマに、市民研究団体等と協働して学術研究、教育普及、保存継承活動を進めるとともに、地域づくりや、魅力ある生活文化の創造・発信につなげる取組を推進します。

12 教育関連施設のマネジメントを進める

飯田市公共施設等総合管理計画^{※6}及び飯田市公共施設マネジメント基本方針^{※7}に基づき、教育関連施設の将来方針を明らかにし、実施可能な施設から具体的な取組を進めます。

用語解説

※1【地育力】 ～ふるさとに自信と誇りを持つ人を育む力～

- ・「地育力」とは、飯田の資源を生かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力であり、地域の多様な資源を地域の人材に触れながら体験的に学ぶ過程において発揮・活用される。
- ・飯田市では、とりわけ、次代を担う子どもたちが、就学や視野を拓げるために一旦は地域を離れても、やがて飯田に戻り子育てを行い、地域づくりの担い手となる「人材サイクルの構築」に向けて、「地育力」に触れる学びを通して「飯田に住みたい」あるいは「飯田に帰ってきたい」と考える心を育むことを重視してきた。
- ・「地育力」は、飯田市独自の造語であり、平成 19（2007）年度から 28（2016）年度を期間に飯田市教育委員会が策定した「地育力向上連携システム推進計画」において定義した。この計画では、人材サイクルの構築をめざし、飯田の将来を担う子どもたちを重点対象に、キャリア教育、体験活動、ふるさと学習、地育力の基盤となる研究機関ネットワークの構築を重点ポイントに設定し取組を推進してきた。
- ・第 1 次飯田市教育振興基本計画では、「地育力による ころ豊かな人づくり」を教育のめざす姿としてきた。

※2【ムトスの心】 ～地域のために自ら進んで行動する意欲～

- ・広辞苑の最末尾にある「んとす」を引用したもので、「…しようとする」という意味が込められ、行動への意思や意欲を表す言葉である。飯田市では、「ムトス」を地域づくりの合言葉として、市民一人ひとりの心の中にある「愛する地域を思い、自分自身ができることからやってみよう」とする自発的な意欲と具体的な行動による市民主体の地域づくりをめざしている。
- ・昭和 57（1982）年度に飯田市が策定した「10 万都市構想」で、理想とする都市像の実現に向けた行動理念として「ムトス」が初めて使用され、平成 19（2007）年 4 月 1 日より施行の「飯田市自治基本条例」においても、まちづくりに進んで参加するムトスの精神が謳われている。
- ・飯田市教育委員会では、平成 2（1990）年度に「ムトス飯田学習交流都市構想」を策定し、まち全体を学習交流の舞台としてとらえ、「地域交流の促進」「専門交流の促進」「交流の場と情報の提供」を 3 つの柱として日常的に市民が交流し学習活動を活発に進めていくことが、まちづくりの原動力であるとされた。

※3【結いの心】 ～暮らしやすい地域をつくるために互いに助け合う心～

- ・飯田の語源は「結いの田」とも言われ、また、伝統産業である水引を世に知らしめたのは元結である。
- ・結いとは、田植えや稲刈りなどの農事において労力を交換し合ったり、暮らしやすい環境を維持していくために共同作業や、そのための相互扶助組織のことをさす。
- ・「結いの心」は、地域社会や集団生活において、他者のために、自らができること実践するとともに、自らも他者からの支えを受けて互いに助け合う相互扶助の心である。

※4【伊那谷の自然と文化】 ～独自で 多様で 奥深い地域アイデンティティーの源～

- ・「伊那谷の自然と文化」の言葉は、昭和 53（1978）年度に発刊された定住構想推進事業の「飯伊地域における文化の振興に関する調査報告書」のタイトルとして用いられ、同時期に策定作業が進められた飯田市美術博物館の開館に向けた基本構想にも引き継がれた。飯田市美術博物館は、伊那谷全域に広がる「伊那谷まるごと博物館」の玄関口として、「伊那谷の自然と文化」を基本テーマに、美術、自然科学、人文科学に関する資料の調査・収集・保管・展示により市民の教養向上に資する事業を行う社会教育施設として設置された。
- ・飯田市教育委員会では、平成 25（2013）年度に「伊那谷の自然と文化をテーマにした飯田市教育委員会における取組方針」を策定したが、この中では、「伊那谷の自然と文化」は、独自で、多様で、それぞれが奥深い特徴を有し、市民のふるさと意識の源であり、飯田の魅力を形づくる基盤となっていることについての基本認識を示した。また、地域変ぼうが予想される時代にあって、社会教育機関を中心とする相互連携と、伊那谷学を推進する市民研究団体が組織する伊那谷研究団体協議会等との協働により、学術研究、教育普及、保存継承、活用創造の取組を、共通重点課題を据えながら、これまで以上に進める方針を示した。

※5 「LG（地域・地球）飯田教育」

- Local（地域）と Global（地球）を一体的、系統的に学ぶ、飯田市独自の教育実践。
- “Think Global, Act Local. Think Local, Act Global.” 「地球規模で考え地域で実践し、地域を想い地球規模で活躍」できる人材を育む。
- 「LG 飯田教育」は、小中学校における全ての教育活動を「LG 教育」の視点から再点検し、それらの教育活動を「LG 飯田教育」でめざす子どもの成長の姿を目標にして、義務教育 9 年間の発達段階に応じて、キャリア教育の視点から系統的に組み立てて進めることを出発点とする。
- また、飯田の強みを生かすことに留意し、ローカル教育では地育力（資源×人材）を、グローバル教育では環境モデル都市や小さな世界都市をめざす人形劇のまちづくり等の取組を、教育資源として積極的に活用する。

※6 飯田市公共施設等総合管理計画

- 総務省から全国の自治体になされた要請に基づき、飯田市が保有する全ての公共施設等（建物施設、インフラ施設、病院施設に区分）を対象に、施設等の現状を把握し、施設毎の個別計画を策定し、更新・統廃合・長寿命化などについて計画的な取組を進めていくための計画。
- 平成 28（2016）年度から平成 37（2025）年度までの 10 年間を計画期間とし、個別施設計画の状況等必要に応じて適宜見直しを行う。
- 本計画の策定により個別施設計画による施設の改修、更新等に、国の交付金や起債（交付税措置）等の新たな財源確保に取り組むことができる。

※7 飯田市公共施設マネジメント基本方針

- 飯田市の多くの公共施設が昭和 40 年代後半から平成の初めにかけて建設されており、老朽化に伴う更新・改修コストの増加が避けられない状況となっている。一方、飯田市の財政は厳しさを増しており、全ての建物の更新は困難になっている。
- 本方針は、飯田市所有の全建物を対象に、「暮らしやすい地域づくりの推進」、「より良い市民サービスの提供」、「財政負担の軽減」を施設管理の基本原則に、「適正な維持管理による公共施設の長寿命化の推進」、「施設の集約化・多機能化等の推進」、「施設の廃止・売却の推進」、「民間活力の導入」、「新施設の考え方」の5つの基本方針に基づきマネジメントしていく考え方を示したもので、平成 27 年度に策定された。
- 各施設の具体的なマネジメントについては、目的別に関係する利用者・組織等により検討する目的別検討会議と、関係する地域住民等により検討する地域別検討会議を設けて検討・推進する。

第3章 中期4年間の取組

飯田市の教育ビジョンと、教育振興の6つの方針、さらには、取組の12の柱、前期4年間の振り返り等から、令和3（2021）年度から令和6（2024）年度までの中期4年間に、重点的かつ組織横断的に取り組む3つの「重点目標」を以下のようにしました。

第1節 中期に取り組む重点目標の考え方

<重点目標1>

“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む
前期4年間の振り返りから、子どもの教育の分野では、小中連携・一貫教育や飯田コミュニティスクールの推進により一定の成果はありますが、学力、不登校など引き続き取り組むべき課題があります。

引き続き学力保障・学力の向上、不登校対策などに取り組み、新たに食育、読書活動の観点や、放課後の居場所づくり、安全対策などの項目を加え、地域と教育などを結び、お互いに助け合う心「結いの心」に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育むことを重点目標とします。

<重点目標2>

豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

前期4年間の振り返りから、公民館活動やふるさと学習やキャリア教育の推進など一定の成果はありますが、地育力を支える人材に関しては、高齢化、在籍期間の短期化、会員の減少などの課題があります。

地域の公民館活動など住民の自発的、自立的な活動・学習による人材育成を再認識し、豊かな学びの土壌を活かした学習と交流を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育むことを重点目標とします。

<重点目標3>

文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる

未来をひらく心豊かな人づくりのため、教育や学習といった面ばかりでなく、サークルや趣味の活動、スポーツなどを楽しみ、心や生活にゆとりやうるおいがあることも大切です。一人ひとりが輝くことは地域の輝きにも繋がると考えます。

文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくることを重点目標とします。

第2節 3つの重点目標

重点目標1

“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

【進捗状況確認指標または重要業績評価指標（KPI）】

項目	現状 (R1)	目標 (R6)
全国学力・学習状況調査における小学校国語、算数、中学校国語、算数の全国平均との比較	小6国語○ 小6算数○ 中3国語△ 中3数学△	小6国語○ 小6算数○ 中3国語○ 中3数学○
自己肯定感（自分の良いところ）全国平均差	小-1、中-3	全国平均

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均をめざします。

不登校在籍比	小 0.87% 中 3.91%	前年度以下
--------	--------------------	-------

* 不登校児童をなるべく増やさないよう前年度以下の在籍比を目指します。

飯田下伊那産野菜主要10品目使用率	54.1%	55.0%
-------------------	-------	-------

* 地場産物使用割合全国平均26.0%（H30）。現状も高いため現状維持をめざします。

授業以外に1日10分以上読書をしている児童生徒割合（県：小6-69.0%、中3-57.1%）	小6-67.1% 中3-55.6%	県平均以上
--	----------------------	-------

* 日常的に本に親しんでいる児童生徒の割合。現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上をめざします。

【アクションプログラム】

■ 学力保障・学力の向上

お互いを認め合い、安心して学べる学級づくりを目指し、子どもたちの学力の保障・向上と不登校対策のため、小中連携・一貫教育を進めます。また、コロナ禍への対応を含め、全ての教育活動を通じてICTの活用を推進します。

■ 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援

日常生活における自他の尊厳を尊重する態度を育成し、互いを認め合える温かな人間関係

づくりと個に寄り添った誰ひとり取り残さない教育や支援を推進します。

■飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進

飯田コミュニティスクールを活かし、地域・学校・家庭がそれぞれ当事者意識を持って協働し、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。

■食育の推進

学校給食の地産地消、有機食材の導入拡大と、献立に地域の旬の食材や郷土食、行事食を取り入れる工夫に努めながら、学校給食を活用した食育に取り組みます。

■子どもの読書活動の推進

子どもが読書を楽しみ、感性や言葉を豊かにし、想像力、表現力や情報を活用する力を付けられるよう、乳幼児期から発達段階に応じて読書体験の充実に取り組みます。

■児童の放課後の居場所づくり

就労等で放課後保護者等が不在となる家庭の児童の居場所づくりのため、児童支援員の確保や適切な配置に努めるとともに、4年生以上高学年の受入希望にも対応できる組織・体制づくりを進めます。

■少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組

児童生徒の減少や学校施設の老朽化が進んでいる中で、地域に根差した飯田らしい教育環境が展開され、将来にわたり子どもたちが主体的に学び合う場とするためには、どのような学校がよいのか、子どもたちの未来のため、みんなで考えていきます。

■防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応

児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、通学路安全対策や環境整備を進めるとともに、気候変動に適応した校外活動に取り組みます。

重点目標2

豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

【進捗状況確認指標または重要業績評価指標（KPI）】

項目	現状(R1)	目標(R6)
住んでいる地区や飯田市の自然、歴史、文化等に誇りや愛着がある人の割合	69.2%	74.3%

* 市民意識調査の数値です。前期の基準年（H27）数値を目指します。

地域や社会を良くするために考えることがある割合（地域貢献率）（県：小 57.0%、中 43.9%）	小 55.9% 中 40.0% 高新規	県平均以上
---	---------------------------	-------

* 現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上を目指します。

人の役にたつ人間になりたいと思う割合（全国：小 95.2%、中 94.3%）	小 95.5% 中 95.0% 高新規	現状維持
--	---------------------------	------

* 社会を支える上で大切な視点です。高水準ではありますが、現状維持を目指します。

地域資源（指定文化財等）の活用件数	41	50
-------------------	----	----

* 指定文化財数の4分の1の活用を目指します。

霜月祭・伝統人形芝居の保存会員数	202	現状維持
------------------	-----	------

* 地域の文化を絶やさず継承していくために、現状維持を目指します。

【アクションプログラム】

■住民の主体的な学びあいの支援

住民の自治の力を高め、地域の担い手を育むため、住民の主体的な「地域の自然や文化などの地域資源を生かした学習や地域の課題解決に向けた学習」を支援します。

■子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開

L G（地域・地球）飯田教育の理念や地育力を活用した環境学習、ふるさと学習、体験学習等を幼児期から高校まで体系立て、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課

題解決力などを育み、多様な自己実現の可能性を広げます。

■飯田の価値と魅力の学びと発信

飯田の価値と魅力を学び次代に繋げると共に、その素晴らしさを発信します。

■伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進

民俗芸能などの伝統文化や恒川官衙遺跡、飯田古墳群、名勝天龍峡などの地域資産を地域の宝として守り、発信します。

■社会教育施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できる社会教育施設の整備やサービスを向上させます。

重点目標3

文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる

【進捗状況確認指標または重要業績評価指標（KPI）】

項目	現状(R1)	目標(R6)
市内で上演した人形劇公演数	498	500
人形劇で交流した国内外の交流数（回）	11	15

* コロナ禍の後に交流を再開し、現状を超えることを目指します。

文化活動を1回以上行っている人の割合	63.9%	65.0%
--------------------	-------	-------

* コロナ禍で抑えられた活動が再開し、これまでの最高値（64.3%）を超えることを目指します。

社会教育団体（文化・芸術・芸能活動）申請登録会員延べ人数	7,692	8,000
------------------------------	-------	-------

* 登録人数が減少傾向の中、3年前に登録の実績がある目標（R6）の値を超えることを目指します。

成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合	48.2%	—
----------------------	-------	---

* 「スポーツ」自体の定義や、スポーツ文化の浸透度合いなど、市民意識調査の項目をR3に見直し予定。それに伴い、目標値も適切に設定。

子どもの体力・運動能力調査におけるA・Bの割合	38.5% (全国 43.2%)	全国値以上
-------------------------	---------------------	-------

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均を目指します。

全市型競技別スポーツスクールの種目数	13(R2)	16
--------------------	--------	----

* 多種のスポーツに触れる環境として、スポーツ協会とともに種目数を増加させます。

【アクションプログラム】

■ 「人形劇のまちづくり」の推進

人形劇の公演・創造活動を楽しみ、その魅力を発信するとともに、「人形劇のまち」を改

めて強くアピールし、国内外との交流を進めます。

■文化芸術の鑑賞や市民の主体的な文化芸術活動の展開を支援

多様な文化芸術の鑑賞機会や文化芸術活動の取組の充実を進めます。

■新たな文化芸術活動の拠点づくり

飯田市の文化芸術活動の拠点施設としての新文化会館の建て替えに向けた検討を進めます。

■市民のスポーツ活動、・コミュニティづくりの支援、スポーツイベントの開催

市民の様々なスポーツ活動を支援し、発信するとともに、スポーツや運動習慣の定着と、スポーツを通じたコミュニティづくりを進めます。また、飯田市の特徴を活かしたスポーツイベントを開催します。

■競技スポーツ人口の拡大と競技志向の向上

トップアスリートの指導やプレーに触れる機会、スポーツ指導者の育成などを通じて、競技スポーツ人口を拡大し競技志向を高めます。また、地域でトップアスリートを育てることができる体制を目指します。

■中学生期の多様なスポーツ環境の充実

全市型競技別スポーツスクールなど中学生期におけるスポーツの多様な選択肢を充実します。

■スポーツ施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスを向上させます。

資料編

第2次教育振興基本計画前期の取組の総括

第2次飯田市教育振興基本計画の前期の取組（平成29年度～令和2年度）では、以下3つの重点目標を定め教育振興を進めてきました。前期の取組での成果と課題を以下に整理します。

重点目標1 すべての子どもたちが輝く学校を地域ぐるみで創ります

アクションプログラム	成果及び課題（○：成果、△：課題）
学力保障・学力の向上	○中学校区毎に、「飯田市学力向上『結い』プラン」に基づき、全ての教室で「ねらい」「めりはり」「振り返り」のある授業をめざし、授業改善を行ってきました。 △中学校で学力、特に数学が伸びていません。中学校での学びの保障が大きな課題です。

全国学調結果	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校（6年） 国語	A◎ B◎	AO BO	AO BO	○
小学校（6年） 算数	AO BO	AO BO	A△ B△	○
中学校（3年） 国語	A◎ BO	A◎ BO	AO B△	△
中学校（3年） 数学	AO B△	AO B△	A△ B△	△

体力・運動能力の向上	○小学校では、各学校で工夫した「一校一運動」が定着しつつあり、コーディネーショントレーニングにも取り組んできました。 △小・中学校ともに運動能力総合評価において全国値を下回っています。
------------	---

運動能力総合評価	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学生（飯田市）	38.6%	37.4%	44.6%	36.7%
小学生（全国）	39.7%	40.7%	41.4%	39.4%
中学生（飯田市）	42.6%	38.9%	44.9%	40.3%
中学生（全国）	47.7%	48.5%	50.1%	48.2%

小中連携・一貫教育の推進※ ¹	<p>○中学校区毎に取り組む課題を設定し、課題毎に小中連携して取り組むことを研究しました。キャリア教育に関し全中学校区において9年間のカリキュラムを作成しました。</p> <p>△取り組みそのものが目的化しており、常に「何をめざしているのか」を共有できるよう、検証・改善が必要です。</p>
----------------------------	---

9年間のカリキュラムの作成	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
9年間のカリキュラム（キャリア教育）を作成した中学校区	—	—	9校	9校
9年間のカリキュラム（外国語）を作成した中学校区	—	—	—	0校

不登校対策の推進	<p>○全中学校に配置した教育支援指導主事を中心に取り組み、人数は増加傾向にあるものの、在籍比は県より低く、全国と同程度に抑えています。</p> <p>△中学校の新規不登校生徒が増加傾向です。減少するように努め、居場所づくりを考えていく必要があります。</p>
----------	--

不登校数	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校人数	33人	34人	42人	47人
小学校在籍比 市	0.59%	0.62%	0.76%	0.87%
小学校在籍比 県	0.48%	0.64%	0.95%	1.11%
小学校在籍比 全国	0.47%	0.54%	0.70%	0.83%
中学校人数	92人	88人	83人	108人
中学校在籍比 市	3.05%	3.02%	2.97%	3.91%
中学校在籍比 県	2.79%	3.19%	3.84%	4.20%
中学校在籍比 全国	3.01%	3.25%	3.65%	3.94%

飯田コミュニティスクールの推進※ ²	<p>○全ての小中学校 28 校に学校運営協議会を設置し、協議会の開催数も増加しています。また、コロナ禍において地域からできることの提案もあり、新たな取り組みがはじまりました。</p> <p>△学校・家庭・地域が「めざす子ども像」実現に向けて、それぞれが当事者として取り組みを深めることが大切です。</p>
-------------------------------	---

学校運営協議会	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
学校運営協議会設置校数	0校	28校	28校	28校
学校運営協議会 年3回以上の開催	0校	17校	19校	20校

重点目標2 地域と日本と世界を結ぶ「L G（地域・地球）飯田教育」を推進します

アクションプログラム	成果及び課題（○：成果、△：課題）
ICT教育の推進	<p>○ICTを使用した頻度（ほぼ毎日・週1回以上）の割合が小学校では県、全国より高い状況にありました。</p> <p>○令和2年度に一人一台の端末を配付しました。</p> <p>△一人一台端末や教育クラウドを活用した授業づくり、家庭学習の推進、充実が求められています。</p>

ICTの活用頻度	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校 市	—	—	—	39.7%
小学校 県	—	—	—	29.5%
小学校 全国	—	—	—	30.6%
中学校 市	—	—	—	23.4%
中学校 県	—	—	—	24.8%
中学校 全国	—	—	—	30.6%

ふるさと学習・キャリア教育の推進	<p>○教育委員会のコーディネートにより、全中学校で職場体験学習を実施しました。</p> <p>△将来に夢や目標を持っている児童・生徒の割合が減少傾向にあり、かつ全国と比べて低い状況にあります。</p> <p>△地域に出たのふるさと学習や職場体験学習など体験する学習はできていますが、学ぶ視点が不十分との指摘もあります。</p>
------------------	--

将来の夢や目標を持っている	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校 市	84.7%	82.2%	86.3%	82.2%
小学校 県	85.4%	85.9%	85.1%	83.5%
小学校 全国	85.3%	85.9%	85.1%	83.8%

中学校 市	72.1%	68.7%	68.5%	66.9%
中学校 県	72.0%	72.0%	72.3%	70.2%
中学校 全国	71.1%	70.5%	72.4%	70.5%
地域貢献率	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校 市	—	30.3%	48.2%	55.9%
小学校 県	—	41.7%	49.0%	57.0%
小学校 全国	—	42.3%	49.9%	54.5%
中学校 市	—	32.6%	42.2%	40.0%
中学校 県	—	35.0%	40.2%	43.9%
中学校 全国	—	33.4%	38.7%	39.4%
自己肯定感 (良いところ)	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
小学校	74.0%	78.6%	84.1%	80.4%
中学校	67.5%	68.5%	75.8%	71.7%

高校生対象の地域人教育 ※ ³ の推進	<p>○飯田OIDE長姫高校3年生と地域を結ぶ教育活動の支援をしました。普通科への展開として令和元年度に新設された飯田女子高校進学コースEクラスへの支援を行いました。</p> <p>△地域での豊かな学びの支援を飯田下伊那地域の高校へ広げていく必要があります。</p>
-----------------------------------	---

重点目標3 「伊那谷の自然と文化」を守り育み世界につながる価値を創発します

アクションプログラム	成果及び課題（○：成果、△：課題）
「人形劇まちづくり」の推進	○人形劇カーニバルから通算 40 回を開催、人形劇世界フェスティバル及び第 7 回 AVIAMA 総会を開催し、小さな世界都市実現に向けた取り組みを行いました。 △人形劇館の入館者数が減少傾向にあります。 「人形劇のまち」を改めて強くアピールし、国内外からの交流人口をさらに増やすことが課題です。

	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
人形劇フェスタ参加証の販売数	11,679	11,597	15,236	12,028
飯田で上演した人形劇の観劇者数	17,357 人	17,455 人	19,025 人	17,056 人
川本人形美術館来館者数	23,041 人	19,220 人	18,642 人	16,567 人
竹田人形美術館来館者数	3,835 人	3,615 人	3,292 人	3,681 人

地域資産の保存・継承・活用	○恒川官衙遺跡や飯田古墳群が国史跡に指定され、保存活用計画を策定しました。 ○菱田春草の常設展の開設や「伊那谷の自然と文化の玄関口」として機能を充実させるため美術博物館開館 30 周年に合わせリニューアルを行いました。 ○名勝天龍峡には、魅力と価値を伝えるガイダンス施設（よって館天龍峡）を開館しました。 △美術博物館をはじめとして入館者数が減少傾向にあります。
---------------	--

来館者数	基準値	実績値		
	H28	H29	H30	R01
美術博物館	44,277 人	46,705 人	42,832 人	44,442 人
上郷考古博物館	2,049 人	2,019 人	1,851 人	1,771 人
天伯・ねぎや	1,262 人	1,053 人	1,033 人	859 人
遠山郷土館	1,583 人	1,458 人	1,349 人	1,210 人

用語解説

※1 小中連携・一貫教育

- ・子どもたちの学力・体力の向上と生徒指導の充実及び不登校問題等の教育課題を解決するために、義務教育9年間を通した一貫性のある教育を、中学校区ごとに地育力を生かして実施する。

※2 飯田コミュニティスクールの推進

- ・学校と地域が一体となって子どもたちを育てる仕組みとなる学校運営協議会を設置した学校を、教育委員会が飯田コミュニティスクールとして指定する。(平成28(2016)年度中に市内全ての小中学校を指定)
- ・学校と地域が信頼関係を深め、地域の創意工夫を生かしたよりよい教育を実現していくために、学校運営協議会には次の3つの機能を有している。
 - ① 学校運営への参画・承認…学校と地域が学校運営について話し合い、目標や課題等を共有し、学校の作成する学校運営の基本方針を承認する。
 - ② 学校評価…学校が行う自己評価について学校関係者評価を行う。
 - ③ 学校支援…学校支援ボランティアを組織化し、年間計画の作成や調整等を実施する。

※3 地域人教育

- ・地域人教育は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人材を育成する教育プログラムである。
- ・プログラムの実施にあたっては、飯田市と松本大学と飯田 OIDE 長姫高校の3者が平成24(2012)年度に協定を結び、互いに協力しあって「地域人教育」を進めている。

第2次飯田市教育振興基本計画

中期の取組

令和3年3月12日

第1版